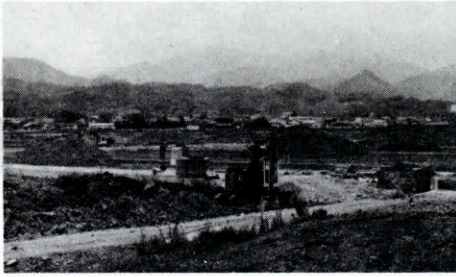


棚田でもは場整備ができますし、あるいは小さいものでしたら単県は場整備事業というものもございませう。この地域には何を、どういう施策を取り入れたら良いのか、そういう中では場整備はどうするのか、地域の農業の将来構想に沿った事業とかを考えていかなければならないと思います。

また、山間棚田のような土地条件の悪いところでは一区画三〇アールの水田を作るといったことはなかなかできない訳です、防災上の問題もありますので土地条件を考えて整備をしていかなければならないと思います。

それから、河原地区はほ場条件が良いところですから将来はほ場整備をして行くべきだと思いますね。



県営ほ場整備事業

松永町長 油谷町で唯一の水が恵まれたところですからね。いま有志の方が地域の皆さんに呼びかけて進められている最中でございませうので数カ月間にまとまった線

が出てくると思います。

藤本県農林部長 大江地区でもですね。県としては団体営土地改良事業での整備が適当かなと思っております。

松永町長 伊上では大江地区が一番まとまった面積になっています。油谷町も戦後岡崎町政の時代に夏みかんに取り組まれ、私の時に花木を始めましたが、これがいづれもかんばしくないわけです。それで自信を持って進められるのは基盤整備（ほ場整備）以外にないと思っております。農家の皆さんが熱心に農業を行っておられるのですが、現在の農業経営では行き詰まりの状態なんです。この穀を破って大きく伸びて行くにはどのようにしたらよいかと悩んでおります。

今の米づくりと肉用牛だけでは不十分な面があると思います。そういう点からこの次に何を考えるかが大事ですが鈴木所長さんのご意見をお聞かせ願いたいのですが……。

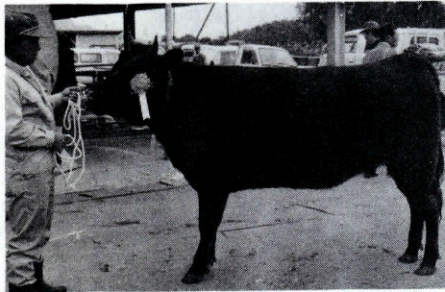
鈴木所長 油谷町は土地に恵まれていると思います。面積的な面でですね。一戸あたりの農家の耕地面積が県の平均よりもずっと広いわけです。一二八アール位で県下で四〜五番目だと思えます。そういう広い農地を持っているし、かたやその農地を実際に耕やして行く農家・中核農家の割合も比較的高いわけです。しかし現実の一戸あたりの農業所得をみますと必ずしも高くないのです。この原因がどこにあるのかを知るべきだと思います。

米の生産だけを見ましても一〇数億円になると思います。そして牛にしましても三億四、〇〇〇万円位の生産があると思います。また、プロイラーは五億円ばかりあったと思います。このように米を除けば比較的粗生産額が高い割に所得率があまり良くないものも

肉用牛の産地化

松永町長 和牛について地域的には質の面も加えて向津具が県下ではないかという感じがします。

藤本県農林部長 そうですね、油谷町は山口県肉用牛の主産地だと考えております。これからは飼料基盤を整備して低コストでの肉用牛の生産を考えて行かなければならないと思います。昨年の県の共進会では油谷町の上田弘志さんの「よしふじひろ号」が農林大臣賞を受けられました。そういう

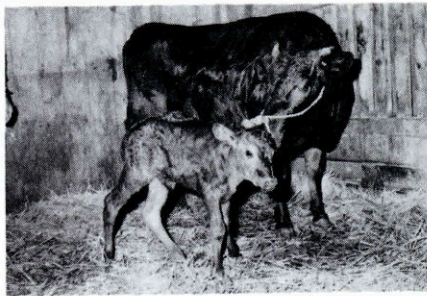


農林大臣賞受賞「よしふじひろ号」

あるわけです。従ってもっと所得率を上げるには、牛そのものの価値と牛を飼うことによって何らかの目に見えないプラスアルファの部分があるのです。それをいかにして見つけ出すかが大事だと思います。

点では油谷町は和牛についての伝統と優れた飼育技術・経営があるということですね。

松永町長 県で集団育種事業というものをもっと早く実施されてい



但馬牛

たら但馬牛ということも考えなかつたと思うのですが、その以前ですかなんとか牛で儲けたいということでも但馬牛に手をつけたわけです。

藤本県農林部長 今いわれた肉用牛集団育種推進事業も、ようやく候補牛ができたところです。ご存

知でしょうが、この候補牛は油谷町の山本功さんが生産した「義徳幸号」ですが、これがいま長門市で育成されております。検査に合格して早い時期に畜産試験場の方へ導入したいと考えております。

松永町長 飼料の面で油谷町は、向津具半島の町有林が広く、これを伐倒した後に草地にしようとして農協や生産農家の方にお話し申し上げておるわけです。県の五九年度の草地計画にも出ております。

藤本県農林部長 その話は聞いております。向津具で草地畜産基盤総合整備事業を来年度から取り組もうということですから、県としてもできるだけこれをバックアップしていきたいと思っております。何とんでも粗飼料の確保が大事ですからね。

鈴木所長 ほ場整備をやると田んぼの土を動かすわけで土壌構造がかわれます。ほ場整備が終わって初年目は稲を作っても良くできるのですが、二〜三年になりますと土のようすが変わってくるので収穫量が落ちてくるようです。そうなるとやはり排水対策をしなければなりませんし、それと合わせて堆きゅう肥を入れて土づくりをしなければなりません。そういう面からすると畜産農家の方と連携を図る必要があると思います。

松岡普及員 基盤整備が終わったら必ず取り組まなければならぬことですからね。

藤本県農林部長 そういう点では牛の一・二頭飼いというのを考えなければと思うのですが……。